

寺口麻穂

ドギー パラダイス!

犬と人間の快適な生活

第25回

ジュリエット

在米22年。かつては人間の専門家を目指し文化人類学を専攻。2001年からキャリアを変え、子供の頃からの夢であった「犬の専門家」に転身。地元のアニマル・シェルターでアダプション・カウンセリングやトレーニングに関わり、個人ではDoggie Project (www.doggieproject.com) というビジネスを設立。犬のトレーニングや問題行動解決サービスを提供している。愛犬ジュリエットが他界した今は、ニューヨークに移転して活躍中。
ご意見・ご感想は：info@doggieproject.com



てらくちまほ

去年の10月5日号から始まったこの「ドギーパラダイス」、無事1周年を迎えました。休まず1年コラムをお届けできたこと嬉しい限りです。しかし、本来ならこの喜びを一番一緒に味わってもらいたい愛犬のジュリエットは、今年7月25日に天国へ旅立ちました。11年半近く、べったり暮らししてきたので、今は生活の変化に戸惑い、もうジュリエットに触れられないという現実を受け止めるのにもがく日々です。ふとした時に思い出してしまい、先日もいつも分け合っていたツナ缶を開けた途端に涙がポロポロ。このコラムで「老犬との生活」や「ペットロス」について触れ、ジュリエットが急速に老いているのも重々承知していたのに、まさかこの夏、自分の身

にこんな悲しい出来事が起こるとは予想もしていませんでした。ジュリエットは、酷く人間に虐められ、ハイウエーにばい捨てされたピットブルでした。もらつてきた時に2〜3歳と推定されたので、14年ほどに及ぶ命を全うしたことになります。この11年半、まさに私たちは運命共同体として暮らしてきました。大変だった時も、楽しくハッピーだった時も、穏やかで平穏な日々も一緒に過ごしてきた私たち。こうして私が「犬」を語るのもジュリエットのお陰です。

無償の愛

今考えれば、こんなこともしてあげればよかった、あんなことしなければよかった……など後悔が一杯です。不機嫌だったり、いらいらしたり、他に気が取られていたり、彼女の要求をきちんと理解できなかったり……。でも、ジュリエットはそんな不完全な私のが100%大好きで、どんな状態でも、絶対の信頼と愛を持ち続けてくれました。「無償の愛」というものの本質を教えてください。それが、ジュリエットです。

めつきり衰えた彼女を楽にしてあげるために天国に送ろうと決めた日の夜、二人でお風呂に入りました。いつもはジュリエットだけをバスバブに入れ洗っ

ていたのですが、その日はお湯をたくさんはって2人で。いつもな飛び出してたジュリエットが、この日は私の腕の中で気持ち良さそうに微笑んでいました。食欲は落ちなかったで、夜中に下痢になるのは覚悟で、最後に大好きなステーキを焼いたら、本当に美味しそうに全部きれいに食べました。今思えば、ジュリエットの身体は2〜3カ月くらい前から天国に行く準備が出来ていたようです。でも、私のことを気遣って一生懸命生きていてくれたように思います。そして別れの決断時期を見過さず、ごまかさず「親」として責任を果たせたことにも感謝しています。天国に逝く時、ジュリエットは一番好きだった犬のぬいぐるみを両手でぎゅっと抱っこし、私は彼女の頭に何度も何度もキスをして、「本当にいい子……本当にいい子」と言い続けました。注射が挿され3つ深い息をしたと思ったらそのまま眠るようにこの世を去りました。

火葬の際は、抱っこしたままのわんちゃんも一緒にいいと言われほっとしました。二人で撮った写真の裏に彼女宛に手紙を書き、私の髪一本と一緒にほっぺに乗せました。生前愛されていた動物が集うという「レインボーブリッジ」のもとにジュリエットが旅立ったと思われる頃、急に胸がほわっと熱くなるのを感じました。そして数日後、彼女はかわいい肉球柄の骨壺に入って、小さくなって帰ってきました。

最後の日にお別れに来てくれたり、骨壺にキスしに来てくれたお友達や近所の人たち。お花やカードやメールもたくさんいただき、本当に多くの人に涙してもらい、温かい言葉をかけてもらい、幸せな母娘だと感激しています。

さて、大好きな犬たちのためにこれからも今までの百倍も二百倍も頑張る決意をして、次回は「トリーナーの必要性と飼い主の役目」についてお話ししようと思います。どうぞお楽しみに。



ジュリエット未来(みく)テラグチ
2011年7月25日に推定14歳の命を全うし、
レインボーブリッジの下に旅立ちました